



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.23

今年の秋に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます（※紹介順は届け出順です）

出目1区民泊協会(出目1区／泉地区)



会長 高田 洋一(写真前列中央)

自他ともに認めるポジティブな性格の高田会長の人生のテーマ、それは「せっかくやるなら楽しもう」。その思いは自然と出目1区民泊協会全体に広がり、誰もが民泊に向けて心を躍らせています。

「皆でやることに意味がある」と話す高田会長。この日も、出目1区民泊協会の有志が集結し、のぼり立て作業を行っていました。終始生き生きとした表情で、楽しそうに汗を流す協会の人たちの姿に、自然と高田会長の顔もほころびます。高田会長は、「わずかな時間でも共有することが大切。そこから生まれた「団結力」ではどこにも負けないよう力を発揮していきたい。そして、1人でも多くの人に民泊に携わっていただき、ともに喜びや感動を味わいたい」と、目を輝かせていました。

「民泊に対して、成功するイメージしか思い描くことができない」と、高田会長らしい前向きな言葉に、大きくうなづく仲間たち。高田会長は、「民泊に関わる全員が「楽しかった」と笑って終われるように、一丸となって準備を進めていきたい」と、意気込んでいました。

西野々民泊協会(西野々／愛治地区)



会長 芝 弘晃

64年ぶりとなる愛媛県での国体開催に、西野々民泊協会は「お互いの記憶に残る国体・民泊にしよう」をモットーに、日々準備に邁進しています。

西野々区は50戸足らずの小さな区。しかし、芝会長は「人数は関係ない。できることを精一杯やる「心意気」が大切」と話し、その西野々民泊協会の人たちの熱い思いは選手に必ず届くと信じています。しかし一方で、「正直不安も大きい」と言う芝会長。不安に押しつぶされそうなときは「不安の殻に閉じこもっては何も始まらない」この言葉が芝会長を奮い立たせます。「この「不安」を西野々区に来ていただくという「喜び」に変え、失敗を恐れず、前進していきたい」と話すその目からは、選手たちを全力でおもてなしする決意がみなぎっていました。

「選手たちと触れ合うことでエネルギーをもらえる」と話す芝会長は、この民泊が西野々区の活性化につながると感じています。「民泊が終了しても選手との交流がずっと続けば最高やね」と、笑みを浮かべていました。